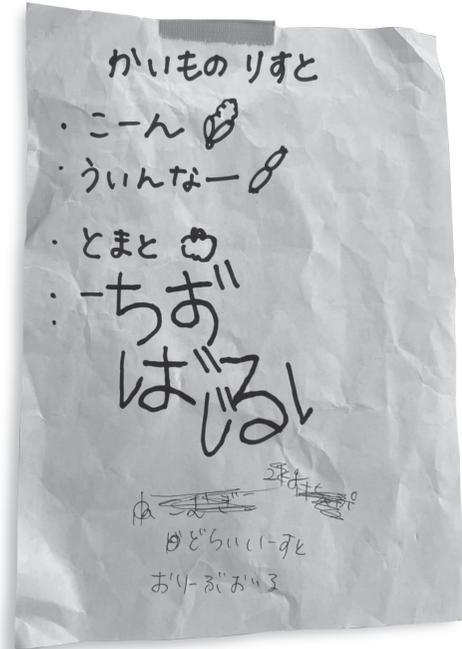


# 上町しぜんの国

園だより | 9月号 2022.9.8



昨日、Mと、Iちゃんと、M.S.で相談して

ピザになに乘せるか考えました

今回は変わり種が見られない内容ですが、

みんなが食べたいピザはK「きょうりゅうびざ」

M「うさぎびざ」

S「はっばびざ」 M.K.「ぶりきゅあびざ」・・・

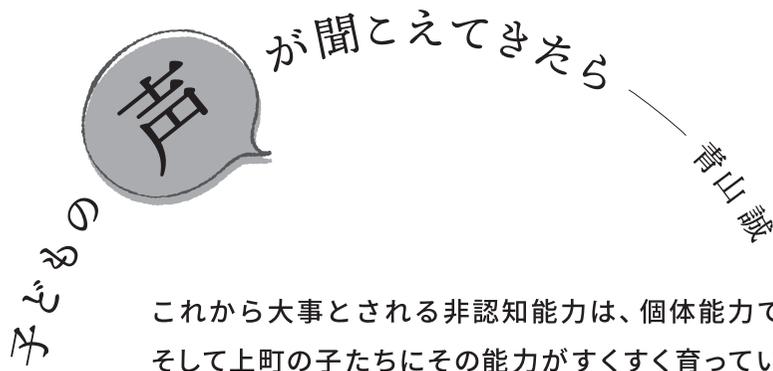
と聞いたことのないピザばかり。

味より形(見た目)にこだわっているようです。

どんなピザができるかな！

楽しみです～！

9月の予定



これから大事とされる非認知能力は、個体能力ではないこと、  
そして上町の子たちにその能力がすくすく育っている、という話

### 非認知能力ってなに？ どうしたら育つの??

非認知能力というものが最近とても注目されてきました。

認知能力がいわゆる「よみかきそろばん」。私達が子ども時代に散々積んできたあれです。

非認知能力は、レジリエンス（心にストレスがかかったときに立ち直る力）とか、協働性（様々な思いのある人と、課題に取り組み、解決していく力）とか、テストではなかなか見えにくい、でも生きていくには必要な力です。

どうも認知能力だけ育ててもうまくいかないことがいろいろわかってきて、非認知能力の大事さが強調されるようになってきました。だからといって、認知能力が不要なわけではなく、その2つの能力は「絡み合いながら伸びる」こともわかってきています。

ただむずかしいのは、認知能力は私達がやってきたようにどのように伸ばしたらいいかがある程度わかっていますが、非認知能力の伸ばし方はちょっとよくわからないということです。それでもいくつかのヒントは示されています。

ドイツの「森のようちえん」（野外保育）で育った子は、初等教育にあがるときにいろいろな能力（認知、非認知含めて）が高かったとのこと。またアメリカの研究でも質の高い

幼児教育を受けた子たちがその後の人生で犯罪率が低かったり、年収が高いなどのデータが出ています。この場合の「質の高い」とはいわゆる「詰め込み型」ではなく、遊びを中心とした幼児教育です。

これは考えてみればあたりまえで、「詰め込み型」では先生の指示を理解し、その通りにふるまうような行動が多くなります。一方、野外や遊びのなかではさまざまな状況や人との関わりが多様に起こり、そのときどきで自分で判断し、行動することが自然と起こります。そこにまたさまざまな感情も起こり、衝突もあります。そんななかで、じゃあどうしたらまた一緒に遊べるかを子どもたちはさまざまに工夫していかねばなりません。こういう環境を用意するのはなにも特別なことではなく、実は少し前は日本でも地域や家庭のなかに自然とあったわけです。これをそもそも学校だけに負わせるのもとてもむずかしいのではないかと思います。それはまた別の話として、上町の事例を見てみましょう。

### 今日の散歩の帰り道 (2022.8.31. 井上)

城址公園からの帰り道。Hがその場を動かなくなった。と言うのも、自分の水筒をYに持ってもらおうとして、でも Yは持ちたくなくて、そんなやり取りの後だった。

さて、どうしよう。動かなくなったHのところへわたしが行こうとすると、Iちゃん、Rちゃん、I.N.くん、Gが駆け寄る。

わたし「水筒持ってもらいたかったのかー。」  
H「だってもう重かったんだもん!!! 持ちたくなかったんだもん!!!」

わたし「そうかー、でも、Yも嫌だって言ってたしね、困っちゃったね。」

他のみんなもHのまわりになんともなく居る。さて、どうしようね。そんなことをつぶやきながら、わたしもHの近くに居る。I.N.や、Gは、どうしたら Hの気持ちを明るくできるのかを模索しているようで、なにやらいろいろと話しかけている。城址公園からの帰り道の、線路と少し大きめの道路を越えたあたり、園の前の道に続く緑道に、しばらくの間みんなで座り込んだりしていた。

それなりの時間が経った頃、I.N.とGが何かを決めたようで、みんなに話し始めた。

I.N.「みんなー、みみ、ふさいで。Gが、うたうたうって。Hに。」

G「うたいたいんだけど、はずかしいから、みんなは みみ ふさいでほしい。」

I.N.「はい、みみ ふさいでー！」

そう言って、I.N.くんも耳に手を当てる。その言葉から状況が分かって耳をふさぐ、H.K.、I、R、わたし。やや離れたところに居た Uと、K、Yは、どうやらまだ状況が分かっていないようだ。

すると、I.N.は、もう一度説明する。  
I.N.「…～～だから、みみ ふさいで。」

すると、U、K、Y.E.、実習生のH.A.ちゃんも、真剣な面持ちで耳をふさぐ。

わたし「はい。いいよー！（準備できたよー）」

G「…え～、でもなあ～、やっぱ はずかしいなあ～」

H.K.「まあだあ？」

Gの行動を待ちながら、もう一度仕切り直して耳をふさぐみんな。  
I.N.「はい！ いいよっ。」

でもGは歌わない。  
G「やっぱり、めもつむってほしい。はずかしいから。みないで。」

I.N.くんと筆頭に、「わかった。」とみんなも目をつむる。

G「あ～、でもやっぱりはずかしいなあ～」  
わたし「…まだー？」

G「やっぱり、かくれてほしい。みえなくなったら うたう。」

わたし「じゃあ、この先の いつもみんなが隠れるところまで行こうか。」

そこで、みんなで少し歩みを進めることに。さっきまで頑として動かなかったHも、ふらりと立ち上がると、先頭を歩いていく。

隠れられる場所に着いた。よし、じゃあ、今度こそ！と、みんなは耳に手を当て、目をぎゅっと閉じる。

G「あー、だからさ、かくれてほしい。みえなくなっしてほしいから、こっちにいて。」

Gの誘導により、Gの目線に入らない場所へみんなは移動する。そしてまた、耳をふさいで目をつむる。

…

小さな声で歌が少しだけ聞こえてきた。しばらくその歌を聴いたあと、誰かが「なんだ。きめつじゃん。」とつぶやく。

その言葉が嫌だったのか、今度はGが座りこんで動かなくなる。Y.E.もパワーの限界。もうぜったい動かない!!!と座りこむ。さすがに時間も押していたので、GとY.E.は抱っことおんぶで帰ったけど、その時にはHはもう、さっきまでの表情とは違って、いつものように自分の足で歩いていた。

座り込んだHの周りで、どうしようか、とその場のみんなで考えた時間は、結果的にはとても時間がかかった。

でもメンバーに5歳児が多かったこともあって、子どもたちがあれやこれや、Hの今の状況に合う解決策は何かと思いを巡らせた

りしたことや、その場の空気を共有してそこに居ることそのものに、ちゃんと意味があったように感じる。

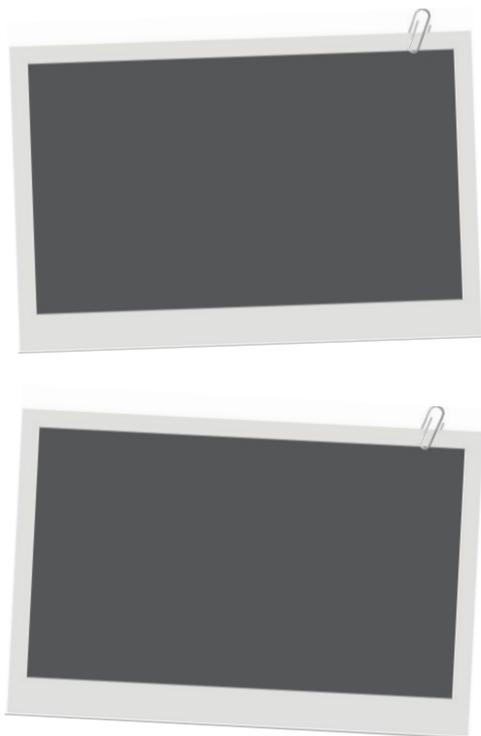
それにわたしがこの時のことを印象的に思っているのは、『みんなでHのためにあれやこれや考えたから』だけではないような気がして、それはいったい何なのかと考えてみると、

Hのためにと行動していたはずが、だんだんと『どうやったら Gが歌い始められるか』あたりに問題がちょっとずつシフトしていつて、そこにみんなが協力しているような感じにも、何かおもしろさを感じたように思う。

最後には、せっかく歌ったのに「なあんだ」と言われてしまったGや、疲れ果てたY.E.を大人が背負い、『何のための時間だったのか』さえも訳分からなくなっているあたりの…曖昧さと言うのか、そう言ったもの。

なんなら、今日の散歩は『昆虫採集の仕かけをしに行く』が、もともとの目的で、H.T.が必要だと言って買ったシロップやバナナ（を、腐らせたもの）を城址公園に仕かけに行ったのだが、この目的を達成したか、しなかったか、よりも、この帰り道のあれこれの方が印象に残っていて、それがまたおもしろいなあ、と思った。

だと思えます。おとなはそれを大事に尊重して育てるだけ。人は自分の気持ちを受け入れてもらえて初めて、他者の気持ちも受け入れることができるのだと、しなやかに他者に寄り添う子どもたちを見ていて感じます。



#### 非認知の能力は個体能力ではない

この事例を見ていると、非認知能力は人とともに育ち合い、関わりあうなかで育ってくるもので、けっして個体能力ではないことがわかります。あれこれやありつつも最後は気持ちをたてなおしたH、Hの気持ちにちゃんと座って寄り添うまわりの子たち、「ではどうしたらいいか」を考え出し、それを実践するI.N.やG。またそれにつきあう子たち。レジリエンスも、協働性もちゃんと育っています。そもそも子どもたちのなかにまわりの子とともに自分で育つ力がちゃんと備わっているの

上町しぜんの国のキッチンより



### 季節の味わい

園の畑では、今年も夏野菜が収穫できました。

中でもたくさん採れたきゅうり。大きくなりすぎてしまったものを、梅酢を使って、しば漬けにしました。

「あかいきゅうりだ～～！」と興味津々の子どもたち。

食べてみると、「すっぱい！」と梅酢の酸味に口をすぼめる子も。

バジルもたくさん収穫でき、バジルソースを作りました。グリルチキンに添えていただきました。

いつもとはちょっと違う香りに、

「いいにおい～」 「レストランみたいなにおいがする～」という子も。

畑の恵みを通して、季節ごとの色、味や香りを楽しめたらいいな、思っています。

－キッチン久保田



### キッチン旬だより

#### 【秋なす】

晩夏から初夏にかけての季節の変わり目、夏野菜もまだ沢山出回っています。

中でもなすは、秋になると皮が柔らかく、実がしまっておいしい時です。

「なす紺」と呼ばれる紫紺色の皮に含まれる成分は、ポリフェノールの一種で、血管をきれいにする効果があるといわれています。

素焼きや煮物、お味噌汁の具など、様々な料理に合うなす。旬の美味しい時期を楽しみたいですね。



## 保健だより

少し涼しくなってきましたが、まだまだ蒸し暑い日が多いですね。  
先月は「手足口病」や「ヘルパンギーナ」などのいわゆる「夏風邪」と言われる感染症が流行りました。

「手足口病」「ヘルパンギーナ」は5歳くらいまでの子どもがなりやすい病気です。どちらも症状はよく似ていますが、「ヘルパンギーナ」は40℃近い高熱が出る事が多く口腔内のみ水疱ができます。「手足口病」は微熱～38℃台くらいまでの熱が出る事が多い（最近では39℃台の高熱が出ることもあるそうです）、口腔内だけでなく手足にも水疱ができます。  
くしゃみや咳などによる飛沫や接触により感染する病気です。  
園では、手洗いうがいや、換気に注意しながらみています。

特に医師の登園許可書などは必要ないですが、口腔内の水疱により飲んだり食べたりができなかったり、機嫌が悪く遊べなかったりする場合は無理せずおうちでゆっくりしてくださいね。  
また、「手足口病」、「ヘルパンギーナ」ともに、糞便中に1ヶ月くらいはウイルスが排出されると言われています。おむつを交換した後は必ず手を洗いましょう。

※RSも少しずつ出ています。喘息など呼吸器系のアレルギー疾患をお持ちのお子さんは特に咳症状が強くなりますので気をつけましょう。

※PCR検査を受験する際には  
発熱や何かしらの症状があり、医師からの指示で受けることになったPCR検査については、受けることになった時点で園に連絡をいただければと思います。また、結果に関しても、結果が出たら陰性であっても連絡をお願いします。

- 看護師 通山

◎感染症状況(8月中)：手足口病(疑い含む) 13名、  
ヘルパンギーナ(疑い含む) 3名、  
RS 2名

## 職員の声

月曜日はUP 土曜日は  
「しいやけと」  
「えっ!? 午の事知ってるの!?!」と  
感じさせるドンピシャ見届  
前向をイヤあやの音葉。  
あやのしん身とあやの音葉♪  
「アハハ」渡部有菜(19歳)

ずうと気にふいていては  
「進撃の巨人」や、と観始めました!!  
6シーズンあるアニメやドラマ、「みぞー」  
って気持ち強くないと観始められ  
ておね...!  
始めたら止まらない!! 面白い!!  
めい

最近「空飛ぶ広報室」  
という以前のドラマを見返した  
ことをきっかけに、ブルーインパルスに  
はまっています😊 どうしても本物が  
見たくて、友だちを誘って、仙台の松島  
基地まで行ってきました! ブルーインパルスは  
かわいいし、食べものはおいしいし!  
また仙台に行きたいです!!  
あやちゃん

『我が子のランドセル問題』  
来年1年生になる長男  
ランドセル購入のタイムリミットが  
そこまで迫っています。  
私としては「重いな〜」「高いな〜」  
「みんなと一緒か〜」と抗う方法を  
考え中です。  
あやちゃんち  
いっしょ

# 上町しぜんの国

園だより9月号